奈良女子大学　下市町との連携事例

自治体の課題（ニーズ）

奈良県下には過疎化が進んだ自治体が多い。下市町はその1つである。

病院が遠く通院に不便なだけでなく、在宅看護・介護の場合、人手不足で一人のヘルパーが地区全体の相談を担当する事になり、巡回や電話対応しきれないなど、マンパワーの面でも少子化の影響を被っている。

そのため、少人数でも効率的・効果的に在宅者を見守れる方法を考えたい。

研究成果（シーズ）の還元

独居高齢者や妊婦、子供、アトピーによる掻爬等の疾患に苦しんでいる方等を日常簡易に見守ることができるウェアラブルデバイスや、行動を家電製品の使用状況から推定するスマート電力計等を導入する事で、遠隔地の役場や病院、保健所から少人数でも多くの方を同時に見守ることが可能となる。

現地対応のために、地域に販売網を持つ生協等と連携し、システムと人の複合で地域を支える。

■ この連携に携わった研究者

研究院　工学系
才脇　直樹　教授

（研究者の経歴）

2016年 4月　奈良女子大学　研究院　教授
2012年 4月　甲南大学　知能情報学部　教授
2003年 4月　奈良女子大学　生活環境学部　助教授
1999年 4月　大阪大学　大学院　基礎工学研究科　システム人間系専攻　専任講師
1993年 5月　大阪大学　基礎工学部　制御工学科　助手
1993年 4月末日　助手採用に付き、大阪大学大学院　基礎工学研究科　物理系博士後期課程　単位取得中退）

奈良女子大学　山口県、広島県竹原市との連携事例

自治体の課題（ニーズ）

日本は自然が豊かであるが故に自然災害や事故も多い。
例えば、山口県は日本海における漁業が盛んであるが、漁業者の海中落水事故が発生すると命に関わる上に、捜索のために船団全体の操業を停止しなければならず、迅速な救助が求められる。
また、広島県竹原市では地域を火災や自然災害から守る消防団活動が活発であるが、地元のボランティアのため、団員の二次災害を防ぎ安全に作業してもらう必要がある。

研究成果（シーズ）の還元

海や山など第一次産業や災害現場などで活動する人の安全見守りのために、GPSによる測位や体温、加速度センサによる活動状態可視化を可能にした作業着やライフジャケットを開発している。
無線LANによりデータを中継するドローンと組み合わせ、人目につきにくい難所や危険地帯、海上などで作業に従事する人の安全を確保することができる。

■　この連携に携わった研究者

研究院　工学系
才脇　直樹　教授

（研究者の経歴）

2016年 4月　奈良女子大学　研究院　教授
2012年 4月　甲南大学　知能情報学部　教授
2003年 4月　奈良女子大学　生活環境学部　助教授
1999年 4月　大阪大学　大学院　基礎工学研究科　システム人間系専攻　専任講師
1993年 5月　大阪大学　基礎工学部　制御工学科　助手
1993年 4月末日　助手採用に付き、大阪大学大学院　基礎工学研究科　物理系博士後期課程　単位取得中退）